

## 地区研究会の活動紹介

### Introduction of the activity in the Regional Association for Laboratory Animal Science

本会報第 29 号 61 頁(2013 年 4 月発行)で紹介したように、わが国では現在 11 の地区研究会が独自の活動を展開しています。各地区研究会の間での情報交換、交流などを意図して、平成 25 年度の活動について北から順に紹介します。なお、会長、事務局担当者および講演者、話題提供者の方々のお名前は敬称を省略させていただきました。御容赦下さい。詳細な内容をご希望の方は各地区研究会の事務局にお問い合わせ下さい。

#### 北海道実験動物研究会

Hokkaido Association for Laboratory Animal  
Science, HALAS)

会長: 有川二郎(北海道大学大学院医学研究科)

ホームページ:<http://labani2.vetmed.hokudai.ac.jp/halas>

事務局: 〒060-0818 札幌市北 18 条西 9 丁目  
北海道大学大学院獣医学研究科  
実験動物学教室内 安居院高志  
E-mail: [agui@vetmed.hokudai.ac.jp](mailto:agui@vetmed.hokudai.ac.jp)  
TEL/FAX: 011-706-5106

#### 第 10 回学術集会(記念大会)

7 月 13 日(土)~14 日(日)、ニセコいこいの村  
○一般講演 7 月 13 日(土)

1. ケージ内微生物の変動はケージ内の湿度およびアンモニアの変動と相関する  
土佐紀子ほか(北大院・医・動物施設、北大院・医・病原微生物、北大院・医・医化学)
2. 新規食餌性肥満動物モデルとしての有用性に関する検討 野崎裕美ほか(化合物安全性研究所、千葉科学大・危機管理)
3. 新規無眼球症ラット *nak* の発症原因遺伝子座の同定 大久保 咲ほか(東農大院・生物産業、東京都医学総合研究所・哺乳類遺伝)
4. ラット *Mip<sup>kfrs4</sup>* 変異による白内障はナンセンス RNA 分解により発症する 渡部 桂ほか(筑波大院・生命環境科学、東京都医学総合研究所・哺乳類遺伝、東農大院・産業生物、京都大院・医・動物施設)
5. 連鎖解析法を用いた ICGN マウスの慢性腎臓病修飾遺伝子座の探索 佐々木隼人ほか(北大院・獣・実験動物、北里大・獣・実験動物、日本食品分析センター・千歳研)
6. コンジェニックマウスを用いたセンダイウイルス抵抗遺伝子座の証明 鳥越大輔ほか(北大院・獣・実験動物、北里大・獣・実験動物)

#### ○招待講演

「3Rs の実践—獣医学的ケアを中心に—」

黒澤 努(AAALAC International)

「米国における動物実験の歴史と現状」

佐藤晶子(カリフォルニア州立大・リバーサイド校)

○一般講演 7 月 14 日(日)

7. 環境依存的な大脳皮質におけるネトリン 4 遺伝子の発現解析 北田一博ほか(北大院・理・生命理学、阪大院・生命機能・細胞分子神経生物)
8. BALB/cA 系統の高音特異的早発生難聴の発症の原因となる *Cdh23<sup>7534</sup>* アレルと *hfh1* 遺伝子座 小原 央ほか(東京都医学総合研究所・哺乳類遺伝、筑波大院・生命環境科学、新潟大院・歯学総合、東農大院・生物産業、東京都医学総合研究所・遺伝子改変動物)
9. 組換え抗原を利用したげっ歯類のレプトスピラ症迅速簡易診断法の開発 塩川愛絵ほか(北大院・医・病原微生物)
10. ハムスターモデルを用いたエボラウイルスとアデノウイルスに対する 2 価ワクチンの評価試験 津田祥美ほか(北大院・医・病原微生物)

#### ○賛助会員アワー

「代替法への取り組み—BCOP 法を中心に—」

伊藤浩太ほか(化合物安全性研究所)

#### ○招待講演

「Laws, Regulations, Guidelines and Principles  
Pertaining to Laboratory Animals in Korea」

Jae Hak Park(ソウル国立大・獣・実験動物)

#### 東北動物実験研究会

Tohoku Research Association for Animal Experiments  
会長: 大和田一雄(山形大学医学部附属動物実験施設  
設)

ホームページ:<http://www.med.akita-u.ac.jp/~doubutu/tohoku/tohoku.html>

事務局: 〒190-9585 山形市飯田西 2-2-2

山形大学大学院医学研究科生命環境医科学

専攻附属動物実験施設内 須藤まゆみ

E-mail: [s.mayumi@med.id.yamagata-u.ac.jp](mailto:s.mayumi@med.id.yamagata-u.ac.jp)

TEL: 023-628-5485、FAX: 023-628-5489

#### 第 24 回研究会(弘前大会)

大会長(弘前大学 成田浩司先生)

12 月 6 日(金)、弘前文化センター 中会議室

#### ○東北地区若手研究者研究フォーラム(1)

1. 無毒変異 TSST-1 免疫により誘導される IL-17A バイスタンダー効果による黄色ブドウ球菌感染防御機構 成田浩司(弘前大院・医学研究科・感染生体防御学講座、附属動物実験施設)
2. 麻布大学大学院在学中における修士論文研究

～ EL 系統に由来する痙攣発作感受性 QTL を導入したコンジュニク系統の形質解析

場崎恵太(麻布大動物工学研・秋田大バイオサイエンス教育・研究センター動物実験部門)

3. 神経障害性疼痛発症時に生じる脊髄内での機能的変化 右田啓介(弘前大院・医学研究科・脳神経生理学)

4. Gata2 発現低下による単球性白血病の発症メカニズムの解析 原田伸彦(東北大院・医学系研究科附属動物実験施設)

○東北地区若手研究者研究フォーラム(2)

5. 食後高トリグリセリド血症ウサギにおける脂質代謝関連遺伝子の発現の特徴

福田直樹(山形大医・附属動物実験施設)

6. イメージング装置やテレメトリーシステム等新しい機器を用いた実験動物の生体現象の解明 若井 淳(福島県医大医・附属動物実験施設)

○特別講演

マウス臍帯血移植モデルを用いた免疫系再構築に関する研究 伊藤巧一(弘前大院・保健学研究科)

○動物実験教育訓練セミナー

(共催：公益社団法人 日本実験動物学会)  
ー動物実験と動物福祉ー

1. 人道的な動物実験技術の 3R 原理：Russell と Burch が述べたこと  
笠井憲雪(東北大・動物実験施設センター)
2. 動物実験の法規制と透明性に関する諸外国の現状 池田卓也(公益社団法人日本実験動物学会 動物福祉・倫理委員会)
3. 動物実験における Refinement の実践：実験動物の今日的麻酔法と安楽死法の課題  
黒澤 努(元大阪大医)

## 筑波実験動物研究会

Tsukuba Association for Laboratory Animal Science

会長：山海 直(医薬基盤研究所)

ホームページ：<http://www.talas.jp/>

事務局：〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜 3-17-6 11F 日本チャールス・リバー(株)内 上田 尚

E-mail: takashi.ueda@crl.com

TEL: 045-474-9340、FAX: 045-474-9341

### 第 21 回研究会総会および第 45 回講演会

6 月 7 日(金)、文部科学省筑波研究交流センター

○講演会 I 特別講演

演題 1 日本実験動物協会 実験動物技術者資格認定の現状と展望 福田勝洋((社)日本実験動物協会会長・名古屋大名誉教授)

○講演会 II 動物の行動について

演題 2 日本マウスクリニックにおける行動解析パイプラインのご紹介 山田郁子(理化学研究所 バイオソースセンター)

演題 3 隔離飼育ラットにおける快情動刺激(Tickling)の効果 堀 美代(国際科学振興財団

バイオ研究所)

演題 4 新奇環境変化が摂食行動に及ぼす影響について 服部智久(株)ツムラ 製品戦略本部ツムラ研究所)

演題 5 北米に見る実験用マウス・ラットの特性や習性に基づいた環境エンリッチメントの考え方 池田卓也(日本チャールス・リバー(株))

### 第 25 回研究会技術講習会

10 月 4 日(金)、筑波大生命科学動物資源センター「ラットの技術講習会」実技(保定、個体識別、性別判定、一般性状観察、投与、採血、麻酔、解剖、検査法、手術法など)

### 第 46 回講演会

11 月 8 日(金)、文部科学省研究交流センター「実験動物施設の滅菌・消毒」

- 1) 総論：最近の施設ホルムアルデヒド殺菌方法及び代替法について 杉浦彰彦(イカリ消毒(株))
- 2) 蒸気化過酸化水素発生装置を用いた RBDS について 中川 進(ゲティング・ジャパン(株))
- 3) 過酢酸系除菌剤を用いた施設殺菌方法について 田村大樹(イカリ消毒(株))
- 4) 実験動物施設におけるオゾン殺菌について 廣中伸治(株)IHI シバウラ)

○教育講演 I

「ゼブラフィッシュによる定量的システムズ薬理学」

田中利男(三重大院・医学系研究科)

○教育講演 II

「動物実験規制の進化と最近の動き」

八神健一(筑波大医・医療系)

## 北陸実験動物研究会

Hokuriku Laboratory Animal Research Association  
会長：山本 博(富山大学生命科学先端研究センター 動物実験施設)

ホームページ：<http://kiea.w3.kanazawa-u.ac.jp/lara/>

事務局：〒920-8640 金沢市宝町 13-1

金沢大学学際科学実験センター  
実験動物研究施設内

E-mail: lara-info@kiea.m.kanazawa-u.ac.jp

TEL: 076-265-2461、FAX: 076-234-4240

### 第 44 回研究会／第 17 回総会

4 月 20 日(土)、金沢大学医学類 G 棟第 4 講義室

○一般講演

「ヒト脳特異的な遺伝子発現制御解明におけるヒト染色体工学の応用」 堀家慎一(金沢大・学際科学実験センター ゲノム機能解析分野)

○特別講演

演題 1 「フェレットを用いた脳神経系の遺伝学的解析」 川崎洋志(金沢大・医薬保健学総合研究科)

### 第 45 回研究会

9 月 14 日(土)、金沢医科大病院新館 12 階大会議室  
テーマ「老化とがん研究の最前線」

○維持会員ニュース(ニノックスラボサプライ㈱)  
「日本チャールス・リバー(株)実験動物生産施設の  
ご紹介」 中里英樹ほか(日本チャールス・リバ  
ー(株)、ニノックスラボサプライ(株))

○特別講演1「老化耐性・がん化耐性・真社会性齧歯  
類ハダカデバネズミの分子生物学的研究の展  
開」

三浦恭子(科学技術振興機構 さきがけ専任研  
究者・慶応大医・生理学)

○特別演題2「細胞老化による炎症とがん—肥満に  
より増加する腸内細菌の代謝産物が肝がんを促  
進する—」大谷直子(公益財団法人 がん研究所)

## 信州実験動物研究会

Shinshu Experimental Animal Research  
Association  
会長:松本清司(信州大学ヒト環境科学研究支援セン  
ター動物実験部門)  
事務局:〒399-4601 長野県上伊那郡箕輪町大字中箕  
輪 6947-9  
北山ラベス(株) 箕輪生産場 三上博史  
E-mail:mikami.hiroshi@nisshin.com  
TEL:0265-79-8353、FAX:0265-79-8363

### 勉強会・研究発表会

平成25年3月8日(金)、信州大学農学部11番  
講義室

#### 第79回勉強会

「長野県におけるニホンジカの季節繁殖」  
瀧井暁子(信州大農学部)

#### 第31回研究発表会

1. タイラーマウス脳脊髄炎ウイルス誘導による免  
疫性脱髄疾患におけるPD-1Pathwayの役割  
滝澤 章(信州大・ヒト環境科学研究支援セン  
ター)
2. ハムスターを用いた口腔粘膜刺激性試験におけ  
る被験物質の長時間適用法  
有賀和枝(㈱イナリサーチ)
3. カニクイザルにおける脳定位固定装置を用いた  
視床内投与法の確立  
名和弘幸(㈱イナリサーチ)
4. MPC ポリマー処理および高分子添加によるブタ  
精子の付着低減 小林吉倫(信州大農学部)
5. 高周波を利用した動物行動のモニタリングの試  
み 高木優二(信州大農学部)

○信州実験動物研究会報 No. 60 2013年3月発行

## 静岡実験動物研究会

Shizuoka Experimental Animal Research  
Association  
会長:山田静雄(静岡県立大学薬学部)  
ホームページ:[http://www1a.biglobe.ne.jp/  
shizudou/shizudoutop.html](http://www1a.biglobe.ne.jp/shizudou/shizudoutop.html)  
事務局:〒412-8513 静岡県御殿場市駒門1-135  
(㈱中外医科学研究所 伊藤・立部(代理))

E-mail:itotats@chugai-pharm.co.jp  
E-mail:tachibetkn@chugai-pharm.co.jp(代理)  
TEL:0550-87-8327、FAX:0550-87-5219

### 第43回総会(特別講演)・第41回研究発表会

10月18日(金)、三島市民会館(ゆうゆうホール)

#### ○特別講演

動物実験施設第三者認証と動物実験の品質  
門田利人(㈱シミックバイオリサーチセンター)

#### ○研究発表(1)

- ①新たに竣工した京都薬科大学バイオサイエンス  
研究センターについて  
大村知幹(ハムリー(株)・京都薬科大)
- ②動物実験施設内のボンベ固定に関する新方式の  
提案 加藤恒雄((有)キョウエー)
- ③鎮痛剤(Buprenorphine)が肝小核誘発物質の評  
価に及ぼす影響に関する検討  
永田真有美(第一三共(株) 安全性研究所)
- ④イヌ血中心筋トロポニンIと心臓病理組織所見  
との関連性の検討  
板垣圭祐(興和(株) 富士研究所)

#### ○研究発表(2)

- ⑤新たに竣工した京都薬科大学バイオサイエンス  
研究センターについて  
大村知幹(ハムリー(株)・京都薬科大)
- ⑥動物実験施設内のボンベ固定に関する新方式の  
提案 加藤恒雄((有)キョウエー)
- ⑦鎮痛剤(Buprenorphine)が肝小核誘発物質の評  
価に及ぼす影響に関する検討  
永田真有美(第一三共(株) 安全性研究所)
- ⑧イヌ血中心筋トロポニンIと心臓病理組織所見  
との関連性の検討  
板垣圭祐(興和(株) 富士研究所)

○静岡実験動物研究会ニューズレター No. 11  
7月10日発行

## 東海実験動物研究会

Tokai Association for Laboratory Animal Science  
会長:三好一郎(名古屋市立大院医・実験動物研究  
教育センター)  
ホームページ:[http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/  
animal.dir/animalweb/tokai/tokai\\_index.html](http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/animal.dir/animalweb/tokai/tokai_index.html)  
事務局:〒501-1194 岐阜市柳戸1-1  
岐阜大学生命科学総合研究支援センター  
動物実験分野 二上英樹  
E-mail:nikami@gifu-u.ac.jp  
TEL:058-230-6609、FAX: 058-230-6044

### 2013年3月例会

3月9日(土)、岐阜大・医・教育福利棟、講義室1

#### ○企業・技術紹介講演

○教育講演1「マイクロミニピッグの特徴とSPF化  
の試み」 西村崇史(富士マイクラ(株))

○教育講演2「中型動物がもつ実験動物としての可能  
性」 高須正規(岐阜大応用生物科学部)

### 第83回研究会

2013 年 7 月例会・実験動物技術者協会東海支部と  
の合同勉強会

7 月 27 日(土)、名古屋市立大院医・医学部  
研究棟 11 階 講義室 B

○特別講演

「実験動物の系統差を用いた疾患感受性遺伝子同  
定の試み」 佐々木宣哉(北里大)

「動物実験を取り巻く最近の情勢」

山添裕之(名古屋市立大)

○一般講演

①ミニブタ 3 系統の大腿骨

田中 慎(国立長寿医療センター)

②適切な疾患モデル動物に関する考察—多発性囊  
胞腎症モデル動物を例として—

長尾静子ほか(藤田保健衛生大・疾患モデル教  
育研究センター)

③コモンマーマセットの生存性

田中 慎(国立長寿医療センター)

④Wnt シグナル活性化が胃上皮細胞および胃癌細  
胞に及ぼす影響 平田暁大ほか(岐阜大・生命科  
学総合研究支援センター、京都大 iPS 細胞研究  
所、岐阜大院医、藤田保健衛生大医、日本獣医  
生命科学大獣医)

⑤動物福祉に配慮した加齢・老化モデル動物の飼  
育環境のあり方について—国立長寿医療研究セ  
ンター新実験動物施設棟の紹介

小木曾 昇ほか((独)国立長寿医療研究センタ  
ー研究所実験動物管理室、(株)ケー・ユー・シー)

⑥ob/ob マウスの 2 型糖尿病進行に対するプロポ  
リスの抑制効果—腸管膜脂肪組織における免疫  
細胞の役割— 北村 浩ほか(名古屋市立大院医、  
(独)国立長寿医療研究センター研究所老化機構  
部門、北海道大院医・解剖学講座)

⑦遺伝子改変肺がんモデルマウスと系統差を用い  
た発癌感受性関連遺伝子探索システムの作製と  
解析 齋藤浩充ほか(藤田保健衛生大・疾患モデル  
教育研究センター)

⑧ピューラックスによる浸漬消毒についての検討  
羽根田千江美ほか(藤田保健衛生大・疾患モデ  
ル教育研究センター)

## 関西実験動物研究会

Kansai Laboratory Animal Research Association  
会長: 芹川忠夫(京都大学大学院医学研究科附属動物  
実験施設)

ホームページ: <http://www.anim.med.ktoyo-u.ac.jp/kansai/kansai.html>

事務局: 〒606-8305 京都市左京区吉田河原町 14  
公益財団法人 京都技術科学センター 22 号室  
E-mail: kansaijim@anim.med.kyoto-u.ac.jp  
TEL: 075-708-2902、FAX: 075-708-2935

### 第 117 回研究会

3 月 1 日(金)、京都大学楽友会館

研究会テーマ「アカハライモリとゼブラフィッシュ

を用いて生命原理を解き明かす」

○講演 1「アカハライモリのモデル動物化に向けた  
資源・技術・情報基盤の研究: 外傷疾患の治療  
と再生研究への適用を視野に」

千葉親文(筑波大院・生命環境系・脳神経情報)

○講演 2「ゼブラフィッシュの色素細胞間相互作用と  
パターン形成」

渡邊正勝(大阪大院・生命機能・パターン形成)

○トピックス「実験用シロネズミの起源」

庫本高志氏(京都大院医・動物実験施設)

○維持会員ニュース

「(株)トランスジェニック II 期棟稼動について—可  
視化マウス、サル薬理試験 他—」

(株)トランスジェニック

「震災時の安全確保を目的とした実験動物研究施  
設の耐震対策」 (有)キョウエー

### 第 118 回研究会

6 月 14 日(金)、神戸大学医学部会館 シスメックス  
ホール

研究会テーマ「遺伝子改変技術を用いた糖尿病およ  
び動脈硬化研究」

○講演 1「脂質代謝・動脈硬化研究におけるウサギの  
有用性—apoA-II トランスジェニックウサギ開  
発と応用—」

小池智也(神戸大院医・動物実験施設)

○講演 2「新たなインスリン分泌メカニズムと糖尿病  
治療薬開発における意義」

清野 進(神戸大院医・分子代謝医学)

○トピックス「高活性型 TALEN の開発と様々な動物  
におけるゲノム編集」

山本 卓(広島大院理・数理分子生命理学)

○維持会員ニュース

「弱酸性次亜塩素酸水の活用について」

(株)エイチ・エス・ピー

### 第 119 回研究会

9 月 13 日(金)、大阪大学銀杏会館

研究会テーマ「生体イメージングの最前線—免疫学  
の新たな世界」

○維持会員ニュース

「Zucker ラットより見いだされた新しい疾病モデ  
ル動物の紹介」 日本エスエルシー(株)

○講演 1「生きた実験動物での生体イメージング  
—免疫細胞の動く世界の解析」

石井 優(大阪大院医・免疫細胞生物)

○講演 2「ライブイメージングにより明らかになっ  
た皮膚免疫の新世界」

栂島健治(京都大院医・皮膚科学)

○トピックス「CRISPR/Cas9 システムを用いたマウ  
スゲノム編集」 伊川正人(大阪大微生物学研究  
所・感染動物実験施設)

### 30 周年記念大会(第 120 回研究会)

12 月 6 日(金)、聖護院御殿荘

○関西実験動物研究会の歴史と未来

1) 関西実験動物研究会の歩み 阿部敏男(関西実

験動物研究会 幹事長)

- 2) 企業(ブリーダー)から見た関西実験動物研究会  
上田正次(株フェニックスバイオ宇都宮事業所)
- 3) 企業(ユーザー)から見た関西実験動物研究会  
山添裕之(住友化学(株)生物環境科学研究所)
- 4) 関西実験動物研究会、その貢献と期待される役割、一大学関係者の経験から  
塩見雅志(神戸大医学研究科附属動物実験施設)
- 5) 関西実験動物研究会の展望 芹川忠夫(関西実験動物研究会 会長)

○シンポジウム:動物実験の今後を考える

- 1) 「動物の愛護及び管理に関する法律」の今後  
喜多正和(京都府医大院・医実験動物センター)
- 2) 獣医学における実験動物学の今後 岡田利也  
(大阪府大院・生命環境科学・実験動物学教室)
- 3) NBRP マウスの今後 吉木 淳(理研バイオリソースセンター実験動物開発室)
- 4) ES 変異細胞バンクは変異マウス作製に代替たりうるか? 竹田潤二(大阪大医・附属動物実験施設、大阪大医学系研究科環境生体機能学)
- 5) イメージング技術を用いた生体機能の  
Cuttingedge  
八木田和弘(京都府医大院・医・統合生理学)

○特別講演

動物の遺伝子操作から学ぶ胚発生の制御  
近藤寿人(大阪大院・生命機能研究科)

○関西実験動物研究会報 35号 2013年12月発行

## 岡山実験動物研究会

Okayama Association for Laboratory Animal  
Science

会長:織田銃一(岡山理科大学理学部動物学科)

ホームページ:<http://okayamexpanim.sharepoint.com/Pages/default.aspx>

事務局:〒700-8530 岡山市北区津島中 1-1-1

岡山大学大学院環境生命科学研究科  
動物遺伝学 国枝哲夫

E-mail:tkunieda@cc.okayama-u.ac.jp

TEL:086-251-8314、FAX: 086-251-8388

## 第 65 回研究会

7月12日(金)、ノートルダム清心女子大学・中央棟 649ND(4階)

○一般講演

1. ニワトリ筋ジストロフィーに関する研究  
松本大和ほか(神戸大学院・\*現所属:岡山大学院)
2. ニワトリ鞍部に生じる羽の性的二形形成機構  
木幡衣恵ほか(岡山大院自然科学研究科生物科学専攻、岡山大理学部)
3. *repro23* マウス精巣におけるレトロトランスポゾンの発現解析  
前川真穂ほか(岡山大院環境生命科学研究科)
4. ストレス性高体温試験とオープンフィールド試験によるコーヒ揮発性成分のストレス緩和作

用:隔離飼育マウスを用いた検討

曾我部 咲ほか(ノートルダム清心女子大・人間生活学部・食品栄養学科)

5. 酸化ストレスにより発症するアカタラセミアマウスの糖尿病に対するごぼうの効果

土居若菜ほか(岡山理科大学理学研究科、岡山理科大学理学部)

6. アカネズミの繁殖期と行動圏の変化

池本真希ほか(岡山理科大学理学部)

○特別講演

マウス初期胚発生と精子形成過程におけるオートファジー(自食作用)の役割 塚本智史

(放射線医学総合研究所・生物研究推進課)

## 第 66 回研究会例会

世話役:織田銃一先生(岡山理科大学理学部)

12月13日(金)、岡山理科大学 50周年記念館・4階多目的ホール

○特別講演1 「筋ジストロフィーニワトリの水分代謝異常」 齋藤 昇(岡山大院環境生命科学研究科・動物生理学)

○特別講演2 「実験動物を用いた酢酸の肥満抑制効果の評価」 山下広美(岡山県立大・保健福祉学部・研究科)

○特別講演3 「*Hox* 遺伝子と聴覚回路の発生」  
成田裕一(名古屋文理大・健康生活学部・フードビジネス学科)

○特別講演4 「動物実験福祉—主観で語る覚悟を—」  
北 徳(倉敷芸術科学大学・生命動物科学科)

○岡山実験動物研究会報 第29号 2013年4月発行

## 九州実験動物研究会

Kyushu Experimental Animal Research Association

会長:大沢一貴(長崎大学先端生命科学研究支援センター)

ホームページ:<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/AnimalCenter/kyujitsuken/index.html>

事務局:〒849-0938 佐賀市鍋島 5-1-1

佐賀大学総合分析実験センター生物資源開発部門 北嶋修司

E-mail:kitajims@cc.saga-u.ac.jp

TEL:0952-34-2430、FAX: 0952-34-2024

※今年度(平成26年1月1日)から交代。

第31回研究会総会 第33回日本実験動物技術者協会九州支部研究発表会 第7回実験動物ジョイントセミナー・イン九州 共同開催

11月16日(土)・17日(日)、熊本県山鹿市八千代座  
7月16日(1日目)

○一般演題(実技協九州支部)

1. ビーグルの疾病治療と予防への取り組み  
川島良介ほか(株新日本科学 安全性研究所)
2. ビーグルの指間炎再発防止に関する床材の検討  
大迫雅史ほか(株新日本科学 安全性研究所)
3. 米国からの実験用ウズラ輸入の経験

中村直子ほか(熊本大生命資源研究・支援センター病態遺伝分野、熊本大大学院先導機構発生再生医学分野、九動株)

○一般演題(九実研)

1. ヨーロッパモリネズミのエネルギー代謝に関する予備的研究 泉 陽介ほか(宮崎大フロンティア科学実験総合センター、宮崎大農)
2. ヨーロッパモリネズミ過排卵誘起条件の再検討 豊島梨沙ほか(宮崎大フロンティア科学実験総合センター、宮崎大農学部)
3. マウスにおける尿中 Corticosterone 検出によるストレス定量の試み 川辺敏晃ほか(アーク・リソース株)
4. マウス ES 細胞でのジーンターゲットングでの相同組換え体濃縮の試み 竹田直樹ほか(熊本大生命資源研究支援センター技術開発分野、九動株)
5. ラットフリーズドライ精子の長期冷蔵保存と他系統への応用 金子武人(京都大院・医学研究科・附属動物実験施設)

○特別講演Ⅰ(九実研・若手交流委員会担当)

動物におけるゲノム編集技術の最前線  
佐久間哲史(広島大院・理・分子遺伝学)

○賛助会員トピックス

特殊な動線管理など顧客要望を実現する「カスタマイズ入退管理システム」  
中野元次(中央電子株 西日本営業所)

○特別講演Ⅱ(実技協九州支部との共同企画)

ロボット技術の動向と医療分野への展開  
山本節雄(ワイズ・テクノコンサルティング事務所代表)

**第7回実験動物ジョイントセミナー・イン九州(実技協本部・九州本部および実動協本部・九州支部との共同企画)**

- 1) 研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針について 中川原秀樹(文部科学省研究振興局ライフサイエンス課)
- 2) 動物実験をめぐる制度と課題の政策的位置 打越綾子(成城大法学部)
- 3) 韓国における実験動物関係の法律等の規制および第三者評価制度について 朴 在鶴(ソウル大学獣医科大学実験動物医学教室)
- 4) 総括 越本知大(宮崎大)

11月17日(2日目)

○一般演題(九実研)

6. ウサギの麻酔下採血における血清動態に関する知見・第2報 河村祥介ほか(アーク・リソース株、佐賀大総合分析実験センター生物資源開発部門)
7. 食後高トリグリセリド血症(PHT)ウサギにおけるインスリンシグナル伝達関連遺伝子の発現解析 柳原裕太ほか(愛媛大総合科学研究支援センター、山形大院医・動物実験医化学講座、山形大医附属動物実験施設、(独)産業技術総合研

究所)

8. テレメトリ法を用いた安全性薬理試験におけるマームセットの有用性

持留隆伸ほか(株新日本科学 安全性研究所)

○日常業務の最前線(実技協九州支部)

1. 自然給水装置を用いたマウス、ラット飼育時の水漏れ事故の現状と対策～愛媛大学動物実験センターの場合～ 眞野 彩ほか(愛媛大総合科学研究支援センター生物資源分野)
2. 生体認証を用いた入退室管理による微生物洗浄度が異なるエリアの動線管理 越本知大ほか(宮崎大フロンティア科学実験支援センター)
3. 市販のダストボックスを用いた使用済みケージ管理の工夫 増元圭三ほか(宮崎大フロンティア科学実験支援センター)

○微生物学的品質検査の最新情報(実技協九州支部との共同企画)

「わが国のマウス・ラットにおける微生物汚染の現状と新しい検査法」 林元展人(公益社団法人実験動物中央研究所 ICLAS モニタリングセンター)

○特別講演Ⅲ(実技協九州支部との共同企画)

「腸内フローラから実験動物を考える」  
伊藤喜久治(日本エスエルシー株、東富士農産株)

○ランチョンセミナー(実技協九州支部)

「実験動物の光触媒脱臭のご紹介とそのメリット」  
岸 成好(株レナテック)

○施設管理の最新情報(実技協九州支部)

「動物飼育環境へのLED照明導入の試み」  
山本英明(日本チャールス・リバー株)

○日常業務の最前線(実技協九州支部)

4. 「実験動物1級技術者認定試験」に関する教育 加藤雅彦ほか(九州保健福祉大薬学部)
5. 各種マウス系統の受精率向上を目指して 山本直士ほか(長崎大先導生命科学研究支援センター)

○一般演題(九実研)

9. マウスのアセチルコリンに体する感受性を決定する遺伝因子の解析 田中聖一ほか(福岡大アニマルセンター、北海道大院医学研究科実験動物学)
10. マウス肝炎ウイルス抗体検出用組換え抗原の作製 秋吉 知・万年和明ほか(大分大全学研究推進機構、福岡大アニマルセンター、九州保健福祉大薬学部)
11. *Helicobacter* sp. MIT01-6451 の分離培養と消化器系以外の組織からの検出について 山中仁木ほか(長崎大先導生命科学研究支援センター、長崎大院医歯薬学総合研究科、日本エスエルシー株)

○一般演題(実技協九州支部)

4. *Helicobacter hepaticus* の摘発とその後の対応による統御 川辺正等美ほか(熊本大生命資源研究・支援センター)
5. ヘアレスマウスを用いた光毒性のUV照射条件検

討 山田 昂ほか(株新日本科学 安全性研究所)

6. アイソレーターを用いた検疫体制 坂本 亘ほか(熊本大生命資源研究・支援センター)

○機関紙「九州実験動物雑誌 Kyusyu Journal of Experimental Animals」No.9 2013 年 9 月発行

## 琉球実験動物研究会

Ryukyu Association for Laboratory Animal Science

会長:小杉忠誠(琉球大学名誉教授)

事務局:〒903-0215 沖縄県中頭郡西原町上原 207

琉球大学医学部附属動物実験施設内

上田智之

E-mail:ueda@med.u-ryukyu.ac.jp

TEL:098-895-1208、FAX: 098-895-1441

## 第 21 回研究会

1 月 26 日(土)、沖縄科学技術大学院大学

学園セミナールーム

○第一部「動物実験を行うために

日本の Regulation」

1)動物実験を行うために注意すること

鈴木 真(沖縄科学技術大学院大)

2)遺伝子組み換え動物を利用するには

上田智之(琉球大)

○第二部「食品・医薬品開発」

1)医薬品の創薬・開発研究

堀井郁夫(ファイザー(株))

2)機能食品・医薬品の安全性

山田 弘(医薬品基盤研究所)

○第三部「自然科学と実験動物」

1)遺伝子改変動物を用いた mRNA 代謝研究

山本 雅(沖縄科学技術大学院大)

文責:岡山実験動物研究会事務局補佐

編集担当 佐藤勝紀(岡山大学農学部)

(E-mail:ksato@cc.okayama-u.ac.jp)